

IV-104 アンカー・エレメントの概念について

福井工業高等専門学校 環境都市工学科 正員 武井 幸久

1. はじめに

従来の景観問題では、街路を中心に物理指標やSD法等による評価を画一的に議論するという傾向が強い。つまり生活空間の意味や特性、居住者意識を十分考慮できるような枠組は明確にされていない。

そこで前回は、景観イメージを言葉や色として把握するツール、イメージスケール¹⁾の有効性を示した。

今回は、まず場所の関数という考え方を提起して、景観問題とメンタル・マップ²⁾を関連づける。そして生活空間の階層間を繋ぐアンカー・エレメントの概念を導入する。さらにケース・スタディを通して、その意味を具体化し、場所の考え方に関する検討を行った。

2. 生活空間のイメージ

2.1 場所の関数

人は生活空間を「場所」として、イメージを組み立てる。場所とは、ある領域 x とイメージ z を媒介する関数と考えられ、構成要素やその配置、意味等を分化させる。図1はこの関係を示し、以下の3つの参照系

1. エレメント系(地名、施設や場所等: z_1 系)
2. ネットワーク系(配置関係や交通網: z_2 系)
3. アセスメント系(全体の意味・評価: z_3 系)

が想定される。また、生活空間とそのイメージは階層性をもつ。そこで、レベル間の往復関係を考慮して、レベル i の場所の関数を次の2つの式で定義する。

$$z_i (z_1^i z_2^i z_3^i) = F(x_i x_1^i x_2^i x_3^i) \quad (1)$$

$$z_{i+1}(z_1^{i+1}) = G(z_i z_1^i z_2^i z_3^i) \quad (2)$$

但し、 $z_1^i x_1^i$ などは参照系に対応する要因を表す。

2.2 アンカー(錨)・エレメント

リンチ³⁾は都市のイメージに関し5つのエレメントを定義した。同種のものは生活空間の各レベルで考えられ、著名なものはレベルを超越してイメージされる。ここでは、そうした強力なエレメントとソフトな要素を併せてアンカー・エレメントと定義する。

すなわちアンカーは生活空間の階層間を繋ぐ関数で、式(2)と平行する意味を持つ次式(3)で定義される。

$$e_{i+1} = a_i(z_i) \quad (e_{i+1} \in z_1^{i+1}) \quad (3)$$

先の式(2)はレベル i の領域を上位の領域に組み込む関数で、式(3)は上位レベルのあるエレメント e_{i+1} が

レベル i の全体に対応づけられることを表す。つまり、アンカーはレベルを超え周辺のイメージアビリティを高めるとともに、居住者の集団的アイデンティティを強く媒介する要素である。特に著名なものは高レベルでもイメージされ、領域の特異的な役割を果たす。例えば町と地区では公園等、地区と市では学校や職場、歴史施設や個性的界隈等が考えられる。そして子供は、既存の集団的なアンカーを成長に応じ共有するようになる。つまり課題はアンカーと景観の整合性を図り、逆に景観整備によりアンカーを創出することである。

2.3 メンタル・マップ

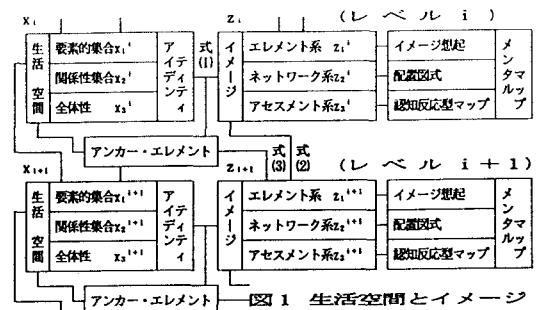
生活空間のイメージは場所の関数とアンカーを媒介として組み立てられ、居住者は生活空間と共に集団的なイメージを共有する。メンタル・マップ²⁾は、それを捉えるための手法で、図1のイメージに対応づけて①イメージ想起、②配置図式、③認知反応型マップ²⁾の3種へと分類される。景観の評価に関するSD法や、イメージスケールは③の手法で、今回は場所性を対象とする①イメージ想起を検討のためのツールとする。

これは「ある領域で、すぐ思いつく場所や物事を挙げて下さい」という問で、特定領域の構成要素を把握する手法である。この問を異なるレベルで繰り返せば、アンカー・エレメントが抽出される。

また各領域では、要素の想起率 p_j とその順位 j の間に、次式のジップの順位法則を適用する。

$$\log(p_j) = a \log(j) + b \quad (p_j = m_j / n) \quad (3)$$

ここに n は被験者数、 m_j は想起率順位が j 番目の要素に対する想起数、 a, b はパラメータである。特に a はイメージの統合性を示し、この値が大きければ、想起が特定のエレメントに偏ることを表す。



3. 調査の結果と考察（ケース・スタディ）

3. 1 イメージ想起調査

以上の点をうけ、今回は滋賀県彦根市の3小学校区
A：金城小学校区（新興市街：2種住専・近隣商業）
B：城西小学校区（伝統的住宅地：住居・近隣商業）
C：城東小学校区（市街地中心部：商業・近隣商業）
において児童を対象に、校区と市の2レベルについて
イメージ想起調査を行った。結果は地区レベルを表1、
市レベルを表2に整理した。表には被験者数、平均想
起数、統合性 a は $j=8$ として算定したものを示した。
また、表中の*印は市と小学校区の両レベルに共通する
要素、アンカー・エレメントとみなせるものを示す。

3. 2 結果の考察

調査の結果からは以下の点が整理できる。

- (i) レベル間を結ぶアンカーの存在を確認できる。
市レベルでも、集团的イメージに地区差がある。
特に新興地Aでは地区のイメージが脆弱である。
- (ii) アンカーは中心部から新興地へと減少し、統合
性 a の値もその順で大きくなる。
- (iii) 各校区のアンカーはハイレベルの琵琶湖と城、
公共施設や商業施設、線的要素の芹川等で、商店
街や通りなどの界隈的領域は想起されなかった。
- (iv) 単純に考えれば、彦根市街では琵琶湖と芹川を
軸とする景観整備が効果的だと考えられる。

こうして、アンカーの存在を具体化し、それを景観
整備のシナリオへと結びつける可能性を示した。

そして、界隈的領域が想起されなかった点に問題が
残る。アンカー・エレメントの概念は、既存のそれと
整合する景観整備の提起だけでなく、景観整備により
場所を広域的なアンカーへと高めることを目的として
含んでいる。景観問題では公共の果たす役割が大きい。
だが、そのことは逆に景観の画一化を助長する恐れに
繋がる。例えば道路は界隈性と相反する施設としての
意味が強い。その意味で、彦根にはアンカー的な界限
がないという現状を逆説的に示したことになる。この
点は、まちづくりにおける一般的な課題と考えられる。

4. まとめ

今回は場所の関数とアンカー・エレメントの概念を
提起した。さらに、それを地区と市のレベルに関して
具体化し、景観問題との関連づけについて検討した。

というのは、むしろ景観がまちづくりの前提となる
集团的意志の問題と考えられるからである。アンカー
の概念は、ある要素を集团的に特定領域と対応づける
という発想である。この考え方が、居住者イメージに
基づく個性的で面的な景観整備により、特定の界限を
ハイレベルのアンカーとして意味づける基盤となる。

また、この概念は町と地区、市と広域圏等にも適用
できる一般性を持つ。今後はさらに検討を進め、計画
問題に幅広く活用できる概念へと発展させていきたい。
(参考文献)

- 1) 武井 第47回年講 2) 同 福井高専紀要'90
- 3) K. Lynch "The Image of the City"

表1 イメージ想起の集計(地区レベル)

エレメント	A:金城小 想起・順位	エレメント	B:城西小 想起・順位	エレメント	C:城東小 想起・順位
公園	52.2 1	城西小	37.9* 1	アルプラザ	28.8* 1
金城小	31.0* 2	芹川	27.4* 2	駐車場	23.8 2
パリア	22.3 3	駐車場	25.3 3	城東小	18.1* 3
平和堂	17.5 4	彦根幼稚園	17.9 4	芹川	18.1* 3
田・畑	16.4 5	彦根西高校	16.8 5	公園	15.6 5
友人宅	14.2 6	友人宅	16.8 5	平和堂	11.9 6
空き地	13.1 7	彦根城	13.7* 7	びがや 文教	11.3 7
琵琶湖	12.0* 8	城西会館	12.6 8	彦根駅	10.6* 8
アパート	12.0 8	市立図書館	10.5* 9	大東公園	10.6 8
芹川	9.9* 10	お地蔵様	10.5 9	観音山	10.0 10
マイト 中村	9.5 11	花園公園	10.5 9	市役所	8.8* 11
地区公民館	7.3 12	市場	9.5 12	生活館	8.8 11
マンション	6.9 13	マイト 中村	9.5 12	中央公園	6.9 13
幼稚園	6.9 13	西公民館	8.4 14	銀行	6.3 14
短大	6.6 15	市民会館	7.4* 15	NTT	5.6 15
その他	17.4 -	その他	20.7 4 -	その他	215.0 -
総想起数 人数	1138 274	総想起数 人数	420 95	総想起数 人数	656 160
平均想起	4.15	平均想起	4.42	平均想起	4.10
統合性	0.707	統合性	0.530	統合性	0.481

(注) 統合力指標 = $\log(p_1/p_a)/\log(8)$

表2 イメージ想起の集計(市レベル)

エレメント	全 想起・順位	A:金城小 想起・順位	B:城西小 想起・順位	C:城東小 想起・順位
彦根城	87.9* 1	83.1 1	94.7* 1	81.9 1
琵琶湖	50.7* 2	68.6* 2	16.8 4	40.0 2
彦根駅	20.6* 3	19.7 3	27.4 2	18.1* 4
各小学校	11.5* 4	19.0* 4	2.1* -	4.4* 9
芹川	10.8* 5	4.4* 7	25.3* 3	13.1* 6
井伊直路	10.0 6	2.9 9	8.4 6	23.1 3
仏壇	6.4 7	1.8 -	4.2 11	15.6 5
荒神山	4.7 8	8.4 5	1.1 -	0.6 -
アルプラザ	4.5* 9	4.0 8	6.3 9	4.4* 9
市民会館	4.2* 10	2.6 11	12.6* 5	1.9 -
市役所	4.0* 11	2.2 13	0.0 -	9.4* 7
自分の住む町	3.6* 12	6.2* 6	0.0 -	1.3 -
バルブ	3.4 13	0.4 -	2.1 -	9.4 7
図書館	2.8* 14	0.4 -	7.4* 8	4.4 9
彦根城祭り	2.6 15	2.6 11	2.1 -	3.1 13
その他	48.8 -	46.7 -	63.2 -	43.8 -
総想起数 人数	1463 523	764 274	260 95	439 160
平均想起	2.77	2.79	2.74	2.74
統合性	1.408	1.492	1.228	1.041

(注) 統合力指標 = $\log(p_1/p_a)/\log(8)$